

令和4年度 地方創生に係る新たな取組

令和5年2月時点

兵庫県三木市

市職員を対象としたRESASを活用した政策立案研修（5月）



RESAS(地域経済分析システム)等を活用した政策立案に係るプロセスを学ぶことで、各種施策の立案において、根拠(エビデンス)に基づいた政策立案ができる職員を育成し、職員の積極的な施策立案につなげるため、令和4年3月に連携協定を締結した近畿経済産業局の支援のもと、RESASを活用した市職員向けの研修会を開催。一般社団法人 コード・フォー・ジャパン及び近畿経済産業局のRESAS調査員を講師として招き、RESASの概要及び操作方法、政策立案プロセス概論、グループワーク及び発表を2日間に分けて実施した。

RESAS(地域経済分析システム)・・・

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局及び経済産業省が提供する、国勢調査や統計等を基にした産業構造や人口動態、人の流れなど、国のオープンデータを集約し、可視化するシステムである。

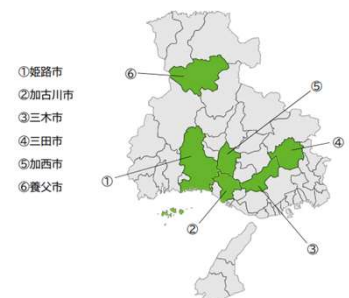


『兵庫県スマートシティモデル地区』に認定(8月)



令和4年8月に兵庫県が募集したスマートシティモデル地区において三木市が採択された。スマートシティモデル地区とは、地域特性に応じた課題に対して、民間事業者や大学等との共創を視野にICT・データによって意欲的に課題解決に取り組む市町をモデル地区に選定し、支援する取組であり、県内では、三木市を含め、6市が採択された。

①青山7丁目団地再耕プロジェクトにおけるヘルスケアや、安全・安心等に係るデジタル技術の活用、②2025 大阪・関西万博を見据えたインバウンド推進に係るスマートツーリズム等につながるデジタル技術の活用、③行政手続きのスマート化につながるデジタル技術の活用 において、今後、兵庫県の連携支援を受け、更に推進していく。



関連意見

- ・ 令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進
- ・ 令和4年度第1回 県市連携による大阪・関西万博に向けた取組の推進

三木若者ミーティング×クールチョイス（8月）



若者の意見を聴取し、市政に反映させることで、若者にとって魅力あるまちをつくることや、若者が三木市を知り、三木市について考える機会とすることで、地域への愛着を醸成する機会とするため、関西国際大学、市内4高等学校及び神戸星城高等学校を対象に三木若者ミーティングを開催している。令和4年度は、「広げようクールチョイス～若い世代へのPRについて～」というテーマを設定し、若い世代に対するクールチョイスのPR方法を未来の地球環境を担う若者自身に考えてもらった。

全2回にわたって開催し、第1回は、市職員によるクールチョイスの概要及び市の取組について、近畿経済産業局RESAS調査員を講師として招き、RESAS等のデータに基づいたアイデア検討の重要性についての講演を行った。第2回は、第1回で学んでいただいたことを基に、各グループに分かれグループワーク及び市長に向けたプレゼン発表を行った。



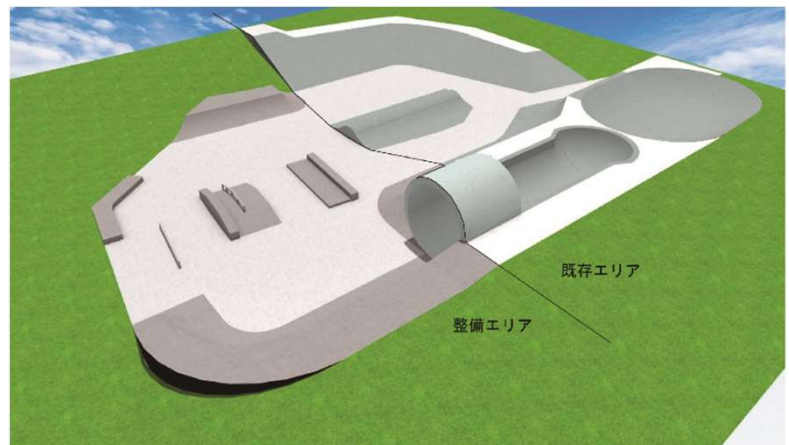
関連意見

- ・ 令和4年度第1回 若者(職員含む)の意見を市政や計画等に反映させる仕組みづくり

三木スケートボードパークのリニューアル案完成（8月）



北播磨地域最初の公営スケートボード場として平成17年に開業した「三木スケートボードパーク」において、2021年の東京オリンピックでの日本人選手の活躍を受け、より多くの方に利用してもらい競技力の向上につなげようと、令和3年12月からワーキンググループを設置し、競技委員やプロ選手などの意見を取り入れて、リニューアル案をまとめた。令和5年4月には、ストリート系のセクションが新たに整備され、初心者から上級者まで「夢中になれるスケートボードパーク」がオープンする。



HYOGO TECHイノベーションプロジェクト（10月～）



県内の様々な社会課題・地域課題について、事業者等が有する情報通信技術を活用し、その課題解決を図っていくことを目的に、兵庫県によって「HYOGO TECHイノベーションプロジェクト」が発足された。

三木市は、聴覚障がい者が行政手続き等を行う際の、要約筆記者や手話通訳者によるサポート体制を構築しているものの、コロナ禍における常時マスク着用で口の動きが見えなくて会話が理解しづらくなった。また飛沫防止パネルの設置によりさらに聞こえにくくなったとお困りの声を受けている。このような環境下で要約筆記者や手話通訳者のコミュニケーション支援要請が増えてきた。そのような中でも、誰1人取り残さないまちの実現をしたい思いから、身体障害者手帳を持っている。聴覚障がい者だけでなく、高齢の耳の聞こえにくい人の支援に係る取組を応募し、兵庫県から採択を受けた。

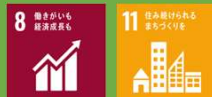
現在は、兵庫県及び株式会社時空テクノロジーズと協働し、AI文字起こしレコーダー「ログミーツ」を活用し、リアルタイムに音声を文字起こしできる技術を聴覚障がい者向けに調整することで、難聴者とのコミュニケーションを円滑にできるよう実証実験を行っている。



関連意見

・令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進

兵庫県×おてつたび@三木（10月）



農業の人手不足解消や関係人口創出の糸口として、兵庫県が進める「多自然地域滞在型ボランティア企画」と連携し、「兵庫県×おてつたび@三木」を開催。お手伝いと旅をかけた合わせたマッチングサービス「おてつたび」を通じて、県外から訪れた2人の大学生をながしお農園（三木市吉川町）で受け入れた。

参加した2人は、丹波黒枝豆の選別作業や、イチゴの苗に肥料を入れる作業を行うとともに、休日は従業員とのバーベキューを楽しんだり、市内の観光地を訪れた。



関連意見

・令和4年度第1回 交流人口及び関係人口増加に向けた取組及び情報発信

社会課題解決に向けた日本最大級の異業種混合型リーダーシップ育成プロジェクト「ALIVEプロジェクト」に三木市が答申先として参加。「ALIVEプロジェクト」は、異業種の次世代リーダー又はリーダー候補である参加者が、全4回（約3カ月間）のセッションを通じて、答申先への政策提案をめざすものである。

このたびは、民間企業（11社）の約40名の参加者が6チームに分かれて、「大都市圏近郊の都市として「遊び・働き・安心して暮らす」まちづくりを推進するためには？～2025年までに+100、遊びに来た人が移住する仕組みを及び測定方法を提案せよ～」というテーマを基に政策提案を行った。※市職員がチームに1名ずつ（計6名）参加した。

この政策提案に対して、審査員（市長及び市幹部など）が採用と判断した場合は、実際に市の政策として進めていく。（今回は、1チームの提案が一部採用）



関連意見

- ・ 令和3年度第1回 ゴルフ等で訪れた人が市内を回遊する地域資源に触れる仕組みづくりについて

LITE DXを活用した子どもたちの交通事故ゼロをめざすまちづくり事業(10月～)

国が進めるデジタル田園都市国家構想に係る取組として、三木市と連携協定を締結している株式会社アシックス及びTOA株式会社と連携して進める「LITE DXを活用した子どもたちの交通事故ゼロをめざす安全安心なまちづくり事業」が国に採択された。

子どもたちにデジタルセンサーを取り付けた靴を履いてもらい、交通事故が多い交差点等に子どもたちが近づくと、その交差点に設置するカメラ付きスピーカー（タウンレコーダー）から音声流れ、歩行者や自転車及び自動車等へ注意を促すことで交通事故の発生を減らす実証事業を進めている。



関連意見

- ・ 令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進

健康づくりでポイントが貯まる『みっきい☆健康アプリ』（10月～）



健康づくりを行いながら、デジタル社会に慣れ親しむことができるスマートフォン用アプリ「みっきい☆健康アプリ」を10月1日から開始した。
健康診査の受診や健康イベントの参加、ウォーキングや運動によってポイントを獲得し、溜まったポイントはマイナンバーカードによる本人確認を経て、最大5,000円相当の電子マネーと交換できる。
現在登録者数 約3,400人 ※2月6日時点



関連意見

- ・ 令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進

指宿鰹節×三木金物 鰹節削り器コラボ企画
地方創生☆政策アイデアコンテスト 近畿経済産業局長賞受賞（11月）



内閣府及び経済産業省が地方創生の推進のため、地域の現状を把握し、地域課題を根本的に解決する政策立案ツール「RESAS（地域経済分析システム）」を活用し、地域課題の分析を踏まえて、地方を元気にする政策アイデアを募集する「地方創生☆政策アイデアコンテスト」において、三木市職員が提案した「指宿鰹節×三木金物 鰹節削り器コラボ企画」が近畿経済産業局長賞を受賞した。

この企画の概要は、九州経済産業局知的財産室と近畿経済産業局地域ブランド展開支援室のマッチングによって実現した世界一固い食品といわれる鹿児島県指宿市が誇る「本枯本節」を、最高の道具の一つである三木金物「鉋」で削ることで、「最高の鰹節をあなたの手で～人がつなぐブランド化～」に、地域団体商標登録同士、地場産業同士の広域連携によるチャレンジである。



令和4年「指宿鰹節アンバサダー」に就任



関連意見

- ・ 令和3年度第1回 他地域を巻き込んだストーリー性のあるコンテンツ造成
- ・ 令和3年度第2回 魅力ある返礼品及びPRの検討

連携協定を締結している株式会社官民連携事業研究所からの紹介によってつながった大塚食品との共同事業として、大豆ミートを通じて「環境問題」「食糧問題」等について考え、これからの未来を生きる子どもたちに環境的な知識の習得に加え、大人たちが取り組む具体的な活動や商品を通じた環境への関心、配慮の気持ちを養う機会を創出することを目的に、小学校5年生を対象としたSDGsに係る授業を近畿大学及び大塚食品を講師として招いた総合学習を行った。その中で大豆ミートを含むプラントベースフードの試食等も実施した。



森永乳業株式会社および株式会社クリニコと「災害時における物資供給に関する協定」を締結。この協定締結により、市内において災害等が発生した場合に、市からの要請で乳児用ミルクや栄養補助食品の供給を受けることができる。赤ちゃんや高齢者などの災害弱者を支えるための防災協定において、製造元である事業者と締結する協定は初である。



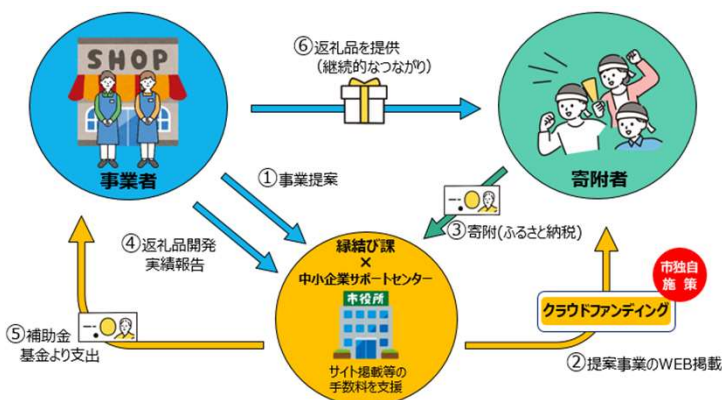
関連意見

・令和4年度第1回 子育てに不安等を抱えている方たちへの支援

ふるさと納税返礼品開発事業（12月～）



新たな資金調達方法である「ふるさと納税型クラウドファンディング」を活用して、魅力あるふるさと納税返礼品の開発を支援することにより、まちの魅力向上を推進することを目的としたふるさと納税返礼品開発事業を開始した。現在は、5事業者が新返礼品開発に向け、寄附を募集している。



関連意見

- ・令和3年度第2回 ふるさと納税の魅力ある返礼品及びPRの検討

地域課題解決に向けた先端技術を有する事業者誘致事業（12月～）



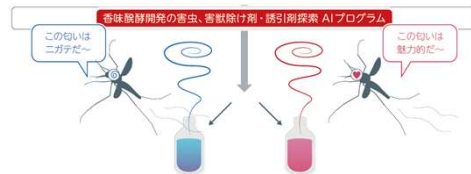
全国的に課題となっている人口減少や少子高齢化問題に対し、事業者の実証実験を積極的に誘致・支援している三木市が、企業版ふるさと納税を活用して事業者誘致をめぐす取組である。

企業版ふるさと納税の寄附金額を上限として、先端技術を有する事業者の本社機能誘致および地方創生につながる地域課題解決に係る費用を補助する予定である。

このたび、認定された世界初の『匂いをデータ化』して再現する独自の技術を持つ株式会社香味醗酵(本社:大阪市)と連携し、企業版ふるさと納税の募集を開始した。

香味醗酵からの提案内容は以下のとおり

- ・鳥獣害対策・・・イノシシやアライグマなどが好む匂いや嫌う匂いなどを開発し、鳥獣害対策に係る実証を行う。
- ・健康増進・・・認知症患者特有の嗅覚の情報データを分析し、早期発見に向けた実証を行う。
- ・市内産業の付加価値化・・・病虫害対策として、農業被害をもたらす虫の嫌いな匂い成分を分析し、病虫害対策に向けた実証を行う。



関連意見

- ・令和3年度第2回 企業版ふるさと納税を活用した官民連携
- ・令和3年度第2回 魅力ある新規企業誘致による市民サービスの向上及び雇用の確保

送迎用バス置き去り防止に向けた実証実験（12月～）



送迎用バスの児童置き去り防止に向け、デジタル技術を活用することで園児の安全安心の確保に加え、リアルタイムに確認通知メールが園や保護者に届くことによる安心感や、デジタルログを残すことで点検＋報告を同時にワンストップで行い、保育園側の負担軽減を図る実証実験を進めている。

株式会社エヴィクサーが提供する「おりた～スマホで確認、届いて安心～」は、運転手やスタッフによるバス車内の見回りの際にスマホで車内壁面に貼られた複数の「GRコード」シールを読み取ることで、車内の園児の置き去りを確認したことが、リアルタイムに園関係者等に通知される仕組みとなっている。



関連意見

- ・令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進

市民課・税務課窓口でのキャッシュレス決済対応レジ導入（1月）



市民課及び税務課の窓口でキャッシュレス決済に対応したレジを導入した。住民票や所得証明書などの各種証明書の交付手数料を支払う際に、クレジットカード、電子マネー、スマホアプリ決済などのキャッシュレス決済を利用することで市民の利便性向上及び職員の業務効率化を図る。あわせて、セミセルフレジ※の導入により、金銭の授受による市民と職員の接触をなくし、感染症予防に努めている。

※職員は、証明書の種類や金額の入力などの請求額の確定までを行い、来庁者側は、画面に表示された金額の支払い方法の選択、支払い、レシートの受け取りを行うもの。



関連意見

- ・令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進

LINEで巡るみっきいゴルフdeデジタルスタンプラリー（1月）



毎年開催している三木市内ゴルフ場25コースを対象としたゴルフ場スタンプラリーが、デジタルスタンプラリーとして、大幅にリニューアル。名称も新たに、「LINEで巡る！みっきいゴルフdeデジタルスタンプラリー」として今春から開催する。



参加方法はLINEで友だち追加するだけ！
LINEアカウントが必要となります
お持ちでない方はご登録をお願いします

**みっきいゴルフdeデジタルスタンプラリー
先行キャンペーン開催**
2023/2/10～2/28

2コース達成で最高10,000円分のデジタル振興券が当たるチャンス！

2コース達成すると抽選式のスピードくじに挑戦できます！

1等	10,000円分
2等	5,000円分
3等	1,000円分
4等	500円分

powered by Stampshot

関連意見

- ・ 令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進
- ・ 令和4年度第1回 ゴルフスタンプラリーのデジタル化

日本オラクル株式会社とスマートシティ推進に関する包括連携協定を締結（2月）



兵庫県が募集したスマートシティモデル地区に三木市が採択されたこときっかけに、デジタル技術を活用して人々にとって住みよい環境を実現する都市「スマートシティ」を推進し、一層の地域社会の発展と市民サービスの向上を図ることを目的として日本オラクル株式会社と「スマートシティ推進に関する包括連携協定」を締結。デジタルツイン※を活用した体験型ツーリズムとして、「旅マエ、旅ナカ、旅アト」を繋ぐ仕組みを構築し、地域の魅力をより広く深く発信し、人と人がつながる魅力的なまちの実現に向けて進めていく。
※現実世界で集めたデータを、デジタル空間上で再現する技術



関連意見

- ・ 令和3年度第1回 コロナ禍及びアフターコロナを見据えたデジタル化の推進
- ・ 令和4年度第1回 県市連携による大阪・関西万博に向けた取組の推進

ネットヨタ株式会社とスポーツ振興や地域活性化に向けて連携協定を締結。協定事項に係る取組として、4月に開催される三木スケートボードパークのリニューアルオープニングイベントに向け、ネットヨタ神戸がプロジェクトオーナーとなり、クラウドファンディングを実施。トップ選手を招いたトークショーや交流会を企画しているオープニングイベントの開催費用の一部を募る。また、寄附額に応じた返礼品として、イベント当日のトークショーへの参加やサイン色紙、特産品である包丁や、山田錦バームクーヘン、ゴルフボールなどを用意している。



